

令和6年6月26日
特定非営利活動法人 千葉自然学校

NPO 法人千葉自然学校 令和5年度 事業報告

はじめに

理事長 久保田康雄

新型コロナの感染症法上の位置づけが「2類」から「5類」に変わり1年が経過しました。季節性インフルエンザと同じ扱いとなり、千葉自然学校の事業においても、新型コロナの影響が軽減してきたような感じがします。

令和5年度NPO法人千葉自然学校の事業を簡単に報告したいと思います。新型コロナの影響がまだ強く残っている昨年と比べると各部門それぞれ回復傾向にあると思われます。

君津亀山青少年自然の家や大房岬自然の家などの指定管理の施設では、受け入れ人数に制限がなくなり、宿泊者数がコロナ前の90%の状態まで戻ってきました。大房岬自然の家などは、昨年と比較すると18%も宿泊者が多くなっています。子どもたちの体験活動を推進しているヤックス自然学校でも、昨年に比べて参加者が11%増えています。それでも、2019年のコロナ前の状況にはまだ戻っておりませんが、大房岬自然公園では、逆にコロナの影響で、キャンプサイト利用件数は、令和元年度と比較して、20%も利用者が増えている状況です。

千葉自然学校のできごととしては、古民家ろくすけでの長屋門の解体がありました。現在も母屋のかやぶき屋根の修理を進めている中、母屋の手前に建っている長屋門の屋根や梁などの老朽化が進み、修復が難しいことから解体することとしました。長屋門の跡地は、駐車場として活用する予定です。

また、会員校とのネットワーク事業として、令和5年度もニュースレター、Facebookなどによる記事・情報のシェアや講師等の人材派遣やプログラムの協働実施などを行ってきました。今後は、さらに多くの会員校との連携を進め、地域に貢献していくつもりです。簡単ではありますが、事業の報告とさせていただきます。詳細報告については、後のページをご覧ください。

■ヤックス自然学校（株式会社千葉薬品 受託事業）

SNS（LINE、Instagram、Facebook）ツールを活用し、募集告知や活動報告の充実を図りました。参加者数が昨年より増加し、会員数は過去最高の登録数となりました。
また、キャプリーダー養成にも注力し安心安全な活動を提供して参りました。

事業件数：57事業（計画：53事業）

稼働日数：139日（計画：134日）

主な事業：

- ①年間通じて、子ども（幼児、小学生、中高生）対象の自然体験プログラム
- ②ファミリー対象の自然体験プログラム（キャンプ教室、お米作り体験）
- ③キャンプリーダートレーニング（NEALリーダー指導者養成含む）

年間参加者数：1,347名（目標：1,500人）

参加者延べ：3,277名（目標：3,500人）

リピーター率：62%（目標：50%）

ヤックス自然学校会員数：423名（目標：350名）



キャンプカーニバル
（サマーキャンプ参加者対象）



キャンプリーダートレーニング
（キャンプ指導者論）

■事業部：受託事業

法人20年の信頼と実績から行政、企業、旅行会社からの事業も継続性を持った事業が多くなって来ました。また、4月のオリエンテーションに仲間づくりやチームビルディング、SDGs、探求学習を取り入れる私立中学校、高等学校からの問い合わせが多くなって来ました。

事業件数：30事業（うち大房岬自然の家へ4事業移行）

主な事業：

- | | |
|---|----------|
| ① SDGs・探求学習をテーマとする教育旅行コーディネート | 10事業 |
| ② 学校・企業へ向けたチームビルディングプログラム | 4事業 |
| ③ 企業・団体の社会貢献活動、環境教育活動支援
（コスモ石油、ハウス食品、千葉テレビ、サラヤ等） | 5事業 |
| ④ 行政との協働事業（千葉県農林水産部農地・農村振興課） | 1事業（8年目） |
| ⑤ その他、指導者派遣、NEALリーダー養成等 | 10事業 |



私立中学校200人規模のチームビルディング／中山間ふるさと活性化チャレンジ事業農村ステイ

■事業部：南房総市大房岬自然の家（指定管理）

利用者の多くを占める学校団体の宿泊行事が再開し、昨年よりも利用者数が増加した一年でした。また旅行社を通じた海と森のつながりを学ぶSDGs環境学習プログラムや行政からの事業も積極的に受託した結果、経常収支も黒字となりました。

事業件数：主催事業 79事業実施

参加者数 1,020名

主な事業：

- ① 県内外小中学校、教育団体、一般団体、森のようちえん全国フォーラム受入れ
- ② SDGsをテーマとした教育旅行受け入れ
- ③ アドベンチャーツーリズム推進のための事業者連携組織運営

実績数値：利用者数24,803人（目標：25,000人）

宿泊者数14,478人（目標：15,100人）

団体数 196団体（目標：220団体）



ビーチライフ九十九里町海の環境教室



森のようちえん全国フォーラム

■事業部：千葉県立大房岬自然公園（指定管理）

コロナの規制が終了し、ボーイスカウトや子ども会といった団体でのキャンプ場の利用が再開され、来園者数やキャンプ場の利用は目標を大きく上回ることができました。
また、森のようちえん全国フォーラムや、天理教関東ブロックの災害救助隊の訓練といった大規模なイベントが公園内で実施されました。全国的にも大房岬が注目されていることを実感した1年でした。

事業件数：主催事業49事業うち36事業実施

参加者数778人

主な事業：

- ① 「ファミリーキャンプ教室」 初心者向けのキャンプの基本を学ぶ
- ② 「岬レンジャー」 親子で岬の生きもの調査と森の整備を行う
- ③ 「ミステリーアドベンチャー」 岬内の謎を解いて隠された宝箱を探す

実績数値：公園来園者数 118,677人（目標：115,000人）

キャンプ場利用張数 3,626張（目標：3,520張）

主催事業参加者数 778人（目標：850人）



岬レンジャー 湧水池の調査



ファミリーキャンプ教室 野外炊事

■事業部：千葉県立君津亀山青少年自然の家（指定管理）

コロナ禍による施設受入人数の制限が撤廃されたことにより、利用人数は利用者数（述べ人数）、宿泊者数、団体数の全てにおいて目標以上の数字を残すことが出来ました。
主催事業においては、予約開始直後に定員に達する事業が多くあり、依然としてアウトドアや自然体験活動に対するニーズの高さを感じました。
閑散期（12～3月）の平日にいかに利用者をいれるかということが以前からの課題であったため、今後今までになかった対象・エリアへの周知活動を行い、利用拡大を図ります。

事業件数：主催事業62事業うち53事業実施

参加者数1,422名

主な事業：

- ① 「ファミリー野遊び教室」 海や川遊びなど野遊びをテーマに複数回実施
- ② 「お月見どろぼう」 地域に伝わる伝承行事をイベント化

③「6歳になったら机を作ろう」木こり体験と学習机を自分で作る体験

④環境教育関東ミーティング2023の受入れ

実績数値：利用者数29,988人（目標：26,842人）
宿泊者数13,772人（目標：12,485人）
団体数428団体（目標：330団体）



6歳になったら机を作ろう
完成後の学習机



環境教育関東ミーティング2023

■地域協働部：ちば・体験活動ネットワーク事業

ニュースレター、Facebook などによる記事・情報のシェアや講師等の人材派遣、プログラムの協働実施などを積極的に行って来ました。

主な事業：

- ① 会員校の Facebook（活動報告、活動案内）記事を当校の Facebook で随時シェア（共有）して、広く社会に情報発信しました。

令和5年5月7日～令和6年3月31日	シェア数	いいね数
大山千枚田保存会	263	1,340
千葉自然学校	148	1,044
ワイズスノー&アウトドアスクール	123	540
銚子海洋研究所	101	318
たてやま海辺の鑑定団	69	366
くじらのもり	43	275
ちば里山センター	31	132
ヤックス自然学校	31	158
森のようちえんはっぴー	9	64
さんむアクションミュージアム	6	21
千葉伝統郷土料理研究会	2	8

ピーちゃんくらぶ	1	2
その他（関連記事等）	34	206
	861	4,474

- ② 会員校（27校）と各エリア担当の情報交換、情報共有、協働事業が出来やすい環境を整えました。また、当法人ニュースレターなどの情報発信ツール紹介、情報提供を行いました。

【北総エリア12校】

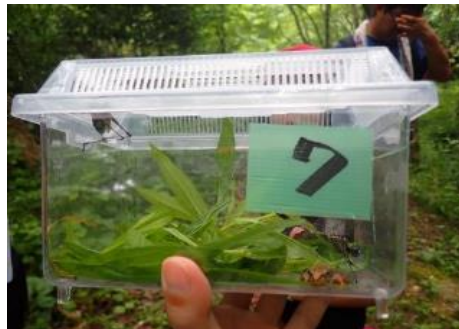
- ニュースレター取材、掲載 「わたしの田舎」谷当工房、ピーちゃんクラブ、食と農の体験工房よもぎ館
- シニア自然大学ボランティアマッチングイベント ピーちゃんクラブ、一般社団法人さんむ・アクションミュージアム、NPO法人佐倉みどりネット
- イベントスタッフ ピーちゃんクラブ（八街落花生まつり）
- 受託事業（ハウス食品：食と農の体験教室） NPO法人佐倉みどりネット
- その他 千葉自然学校20周年記念事業に招待、会員校で栽培・加工している商品の試食コーナーを設置（ピーちゃんクラブ、食と農の体験工房よもぎ館、「わたしの田舎」谷当工房）また、会員校紹介ブース・情報コーナーの設置。

【上総エリア7校】

- ニュースレター掲載 NPO法人大山千枚田保存会 秋号
- 千葉県立君津亀山青少年自然の家 アクティビティ集にプログラム掲載
LiveStock、NPO法人大山千枚田保存会
- 人材派遣 NPO法人大山千枚田保存会 学校団体向け生き物観察 庄司、小林、黒木
- 人材依頼 LiveStock アルバイト依頼
 - NPO法人大山千枚田保存会 君津亀山青少年自然の家アクティビティ講師
 - NPO法人大山千枚田保存会 コスモ石油株式会社環境教育業務委託講師
 - NPO法人大山千枚田保存会 中山間活性化事業講師、フィールド利用
 - NPO法人大山千枚田保存会 田んぼの生き物観察・藍染体験プログラム
 - NPO法人大山千枚田保存会 聖ドミニコ学園昆虫博士キャンプ講師
- その他 環境教育ミーティング（当団体スタッフ実行委員事務局長）に参加（予定）
LiveStock、NPO法人大山千枚田保存会、コスモ石油株式会社
環境教育業務委託備品借用
 - NPO法人大山千枚田保存会 施設食堂で使用する米の発注（地産地消）
 - NPO法人大山千枚田保存会 石田三示理事長 県立君津亀山青少年自然の家
運営委員会委員
 - NPO法人大山千枚田保存会 20周年記念シンポジウムに出席



学校団体向け生き物観察会



コスモ石油株式会社環境教育業務

【南房総エリア 8 校】

- ニュースレター掲載 合同会社くじらのもり 夏号に掲載
- 南房総市大房岬自然の家 アクティビティ集にプログラム掲載 株式会社ちば南房総、NPO 法人たてやま・海辺の鑑定団
- 人材派遣 岩井民宿組合 スライドショープログラム実施
- 人材依頼 NPO 法人たてやま・海辺の鑑定団 受託事業プログラム依頼
合同会社くじらのもり 体験プログラム指導 スタッフ依頼
- 会員校連携 NPO 法人たてやま・海辺の鑑定団 合同会社くじらのもり MAP s
岩井民宿組合 千葉県教育委員会農山村留学事業
- その他 千葉県立大房岬自然公園、南房総市大房岬自然の家を会場に森のようちえん
全国交流フォーラム in 千葉を開催。千葉自然学校職員もスタッフとして協力。
合同会社くじらのもり 自然の家所有の体験備品など貸し出し。
千葉自然学校 20 周年記念事業に招待、また事業内において会員校紹介ブース・
情報コーナーの設置。



森のようちえん全国交流フォーラム in 千葉



受託事業 沖ノ島での活動
NPO法人たてやま・海辺の鑑定団

- ③ 千葉県内の体験活動団体の相談窓口として役割を担い、必要に応じた対応、助言を行なうようにしました。

■地域協働部：古民家ろくすけ事業

令和房総台風以降、古民家ろくすけ長屋門の屋根や梁などの老朽化が進み、修復が難しいことから解体する作業がありました。長屋門の跡地は、駐車場として活用する予定です。

また、母屋のかやぶき屋根の一部茅差替えを行ないました。

地元富山学園中等部の生徒が手作り味噌づくりに訪れ、里山整備作業と共に手作り味噌の作り方を学び、実際に道の駅で味噌販売を行い評判の良い結果となり、新たな地元学校とのコラボレーションが誕生しました。

主な事業：

- ① ヤックス自然学校主催ホームステイ・一般農泊、日帰り利用などの受け入れ
- ② フィルムコミッションや独自の広報による撮影利用
- ③ 県内理科系高校教員、近隣高校生生物部による生物生息環境の保全・維持管理
- ④ 地域産物の加工販売、郷土料理・加工体験の実施、カフェ開催
- ⑤ 平群ツーリズム協議会、「ろくすけの会」、シニア自然大学、地域団体等と連携した地域活動

販売加工品（ジャム、クッキー、みそ、ろくすけもち）体験イベント：12回



ろくすけ母屋



地域産物の加工品
(くわの実ジャムやクッキー等)

■地域協働部：体験農園 IN 岩名

会員校佐倉みどりネットを中心に継続した事業を展開することが出来ました。32区画全てを利用（R3から継続29組、新規3組）しました。コロナ禍も明け、自家製野菜や家庭菜園への関心度も高まっています。

事業回数：24回

主な事業：

- ① 作付け講習会・・・22回
- ② 勉強会（メンテナンス、病虫害対策）・・・2回
- ④ 交流会・・・新型コロナウイルスの影響を考慮して中止



講師による実演講習の様子

■千葉シニア自然大学

社会的に退職年齢が遅くなり規模は縮小する中でも10年以上継続して開校することが出来ました。

事業件数：主催 3 コース

主な事業：第11期

- ① Aコース：ちばの里山里海の自然誌講座（13講座）30名
- ② Bコース：天文・地球（気象・地震・地質・生きもの）講座（13講座）30名
- ③ Cコース：自然と俳句講座（10回）若干名



「山歩きの魅力を知る」
富山（とみさん）山頂にて



「収穫祭（サツマイモ掘り）」
佐倉圃場にて

■総務・広報部

- ①ホームページやSNSを活用した情報発信
- ②新聞社・新聞記者等をマスメディアへの積極的な取材依頼
- ③積極的な給付金、助成金等の活用
- ④働きやすい環境・職場の追求